

令和7年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立東粉浜小学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

社会に出て、夢をつかむことができる子どもを育てる

【 設定理由 】

アメリカの大学教授であるキャシー・デビッドソン氏によると、「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は大学卒業時に、今は存在していない職業に就くだろう。」と予測した。将来、グローバル社会になり、仕事の自動化、AI化、ICT化が加速する。

そんな社会で生き抜くには、自ら主体的に取り組み、指示待ちではなく、自ら解決する能力を持ち、クリエイティブな発想、創造、企画ができることが大切である。同時に、ロボットにはない、人間的感情、優しさ、思いやりに満ちた豊かな心も必要である。

そこで、夢を持ち、その夢の実現に向かって、見通しを持って努力を続けることができる子ども、自他ともに認めあい、支えあうことができる社会を担う子どもを育てることが、未来へとつながる教育と考える。

現状と課題

「安全・安心な教育の推進」では、いじめによる重篤な事案が発生しないよう、常に児童に寄り添い、継続的、組織的に取り組み続けてきた。毎学期のアンケートのみならず、児童の言動から危機感を感じた時にはすぐに情報共有をし、組織的に対応を検討し、関係諸機関とも連携した結果、今のところ大きな問題にはなっていない。また、定期的に来校しているSCやSSWとも連携を密にし、気になる児童を中心に継続的な見守りを続けている。今後も、常にいついじめによる重篤な事案が発生するかもしれないという危機感を持ちながら見守り続けていく。さらに、子どものなかなか声にしにくい思いを、一人一台学習者用端末を活用し、スクールライフノートの「心の天気」「相談申告機能」「いいところみつけ」も日々チェックし活用をしていく。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」では、学力面では学力経年調査の標準化得点で、概ねどの学年もほぼ100を超えることができている。一人一台学習者用端末を「令和の文房具」として日常的に授業で活用し、持ち帰り家庭でも活用できている。ただ、二極化が広がっており、誰一人取り残さず学力の向上を目指すべく、一人一人の学びが今以上に深まる授業について引き続き研究を深めていく。また、体力面では、かけ足習慣やなわとび週間をきっかけに、体育の授業以外の時間でも体を動かそうとする意識が向上しており、ボール遊びだけでなく、さまざまな遊びを運動場でするようになり、体を動かす習慣が定着しつつある。さらに、より意欲的にすすんで体力向上に努めていくように働きかけていく。

「学びを支える教育環境の充実」では、一昨年度取り組んだリーディングDXスクール事業の成果と課題を踏まえて昨年度研究したがんばる先生支援事業の実践により、今まで以上に効果的に一人一台学習者用端末やICT機器を活用し、個別最適な学びに取り組み、協働学習で自分の考えをさらに深め、練り上げることができる授業を工夫してきた。また、引き続き、保護者・地域や関係諸団体と連携しながら、地域に古くから伝わる伝統文化等をはじめとする様々な教育的資源を学習過程に取り入れ、教科横断的な学習として活用することにより、郷土愛を育み続けていく。同時に、プロの音楽家の目の前で

の演奏や漫才師による直接指導、夢をかなえて仕事をされている方によるキャリア教育など、専門家による「本物」を体験できる特別授業を数多く実践することで、子どもたちの心揺さぶる感動体験を引き続き数多く取り入れていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より4ポイント向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査において、「毎日決められた時刻に寝ていますか」「毎日決められた時刻に起きていますか」「毎日朝食を食べていますか」（早寝早起き朝ごはん）それぞれに対して肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を90%以上にする。
- ゆとりの日や午後6時までに全教職員が退勤する日を週1回以上設定する。
- 令和7年度末の校内調査において、「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。（R6年度80.1%）
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。（R6年度86.5%）

○小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。(R6年度82%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。(R6年度42.1%)

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。(R6年度75.5%)

○令和7年度末の校内調査において、「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にし、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を95%以上を維持する。

(R6年度 早寝早起き73.3%、朝食97.3%)

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の85%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く](R6年度81.1%)

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を97%以上にする。(R6年度96.5%)

○年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上を維持する。(R6年度91.2%)

3 本年度の自己評価結果の総括

「安全・安心な教育の推進」では、いじめはいつ起きてもおかしくないという危機感をもち、常に児童に寄り添い、継続的、組織的に取り組み続けてきた。毎学期のアンケートや児童の言動から危機感を感じた時にはすぐに情報共有をし、組織的に対応を検討し、関係諸機関とも連携した結果、今のところ大きな問題にはなっていない。また、定期的に来校しているSCやSSWとも連携を密にし、スクリーニング会議Ⅱでの情報共有など気になる児童を中心に継続的な見守りを続けている。今後も、鋭い人権感覚、危機感をもち続けながら見守り続けていく。同時に、日々活用している一人一台学習者用端末における、スクールライフノートの「心の天気」「相談申告機能」「いいところみつけ」も日々チェックし活用をしていく。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」では、学力面では学力経年調査の標準化得点で、概ねどの学年もほぼ100を超えることができている。一定の学力の定着を図ることができている。一人一台学習者用端末を「令和の文房具」として日常的に授業で活用するだけでなく、持ち帰り家庭でも活用できている。ただ、二極化が広がっていることから、学習指導要領の3つの柱に基づいた学びの深まる授業について引き続き研究を深めていく。また、体力面では、かけ足やなわとびの週間、がんばりカード、学級でのみんな遊びなどをきっかけに、体育科の授業以外の時間でも体を動かそうとする意識が向上しており、運動場に出て体を動かす習慣が定着しつつある。さらに、より意欲的にすすんで体力向上に努めていくように働きかけていく。

「学びを支える教育環境の充実」では、ここ数年継続して取り組んできたリーディング DX スクール事業、がんばる先生支援事業の実践を通して、高い活用率で一人一台学習者用端末、ICT 機器の活用や、個別最適な学びに取り組んだり、協働学習で自分の考えをさらに深め、練り上げたりすることができる授業を工夫してきた。また、引き続き、保護者・地域や関係諸団体と連携しながら、地域に古くから伝わる伝統文化等をはじめとする様々な教育的資源を学習過程に取り入れ、教科横断的な学習として活用することにより、郷土愛を育み続けていく。同時に、プロの音楽家の目の前での演奏や自分の夢をかなえて仕事とされている方々によるキャリア教育など、その道の専門家による「本物」を体験できる特別授業を数多く実践することで、子どもたちの心揺さぶる感動体験を引き続き数多く取り入れていきたい。

(様式 2 - 1)

大阪市立東粉浜小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85% 以上にする。(R6 年度 80.1%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88% 以上にする。(R6 年度 86.5%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87% 以上にする。(R6 年度 82%)</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめ・不登校への対応</p> <ul style="list-style-type: none">・いじめや不登校など配慮が必要な児童の問題解決について、各学級担任・生活指導部長・人権教育部長・養護教諭・管理職が連携して、組織的かつ SC や SSW など外部機関とも連携しながら丁寧に対応していく。・いじめ (いのち) について考える日や道徳授業において、いじめ (いのち) について深く考える授業を行う。 <p style="text-align: right;">()</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・配慮や支援の必要な児童について、いいところみつけ・スクリーニングシートの活用や共通理解の場を月一回設ける。・いじめ (いのち) について考える日や道徳授業において、学期に 1 回以上いじめに関する指導を行い定期的にいじめ (いのち) について考える機会を設ける。	
<p>取組内容② 【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>防災・減災教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・火災や地震・津波の避難訓練、引き渡し訓練、不審者対応訓練、救急救命講習会などを計画し、区役所、警察、消防署などとも連携しながら、取組を進める。・子どもの意識を高めるため、防災学習に取り組む。 <p style="text-align: right;">()</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・避難訓練、引き渡し訓練、防災学習等、様々な状況を想定した命を守る学習を計画的に実施する。	

<p>取組内容③【2 豊かな心の育成】</p> <p>自尊感情の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業や学級活動、他学年との交流活動を通して、自分のよさに気づいたり、仲間に認められたりする場を設ける。 <p style="text-align: right;">()</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活振り返りカードにおいて、「まわりにいる人から、『ありがとう』や『すごいね』と言われたことがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上で維持する。(R6年度 95.5%) 	
<p>取組内容④【2 豊かな心の育成】</p> <p>道徳教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実を図り、子ども同士が意見を交流することができる授業を展開するために、道徳教育推進教師による研修会などを活用して、学校全体での授業の方法や評価のあり方に対する理解を深める。() 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科における研修会などを活かし、1日学校公開日を年間1回の「道徳の日」と設定し、その日の様子をホームページに公開し、保護者や地域に発信する。 ・生活振り返りカードにおいて、「主に道徳の学習のとき、自分や友だちのことをじっくり考えた」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90パーセント以上で維持する。 <p>(R6年度 94.1%)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は86.1%と年度目標は上回ったが、中期目標には届かなかった。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87.0%で目標にはほんの僅か届かなかった。前年度の結果よりは0.5ポイント向上している。</p> <p>○小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は87.2%と年度目標は上回ったが、中期目標には届かなかった。様々なことに興味関心をもち始め、まだ明確な将来の夢や目標をもておらず、探している児童もいるようである。</p> <p>① 指標通りに進められ、十分な達成度がある。日々の道徳の授業、学級指導の成果もあり、重大ないじめは発生していない。子どもの小さなトラブルに丁寧に対応し、いじめの指導については、そのトラブルのたびに事実を確認しながら対応している。子どもの交友関係の変化を見逃さず、声をかけたり、子どもが相談しやすい環境を作ったりしている。不登校傾向の子どもに関しては、保護者と連絡を密にすることで、子どもの様子を見ながら、対応している。スクリーニング会議Ⅰや生活指導部会で、気になる子どもの情報を全体で共有し、早急な対応が必要な場合は、それぞれの担当が役割分担をしながら、組織で対応をしてきた。いじめ虐待防止委員会、スクリーニング会議Ⅱが、外部機関との連携にも役立っている。また、いじめ(いのち)について考える授業については、計画的に実践することができた。</p>	

- ② 年間計画に基づいて計画的に実施できた。避難訓練については、前年度の反省を生かして様々な災害や防犯の状況を想定して、検討を繰り返すことでよりレベルの高い内容で実施できた。また防災の日や避難訓練時だけでなく、理科や社会の教科学習など様々な学習活動を通して、防災や減災について子どもが考える機会を設けることができた。交通安全指導や不審者対応の訓練では、地域の方々や住吉警察署の職員と連携して取り組むことができた。
- ② たてわり班で行った運動会や東粉浜フェスティバル、児童集会などで他学年と交流する機会がたくさんあり、学年が違っても協力して取り組んだり、お互いに温かい言葉がけをかけたりする場面が多かった。また、各学年や学級の実態に合わせた様々な取り組みにより誰かに感謝されたり、自分の頑張りを認められたりすることも多かった。生活振り返りカードにおいて、「まわりにいる人から、『ありがとう』や『すごいね』と言われたことがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は95.3%と昨年度同様の高い水準を維持できている。次年度も自尊感情を育んでいけるような取り組みを継続していきたい。
- ④ 生活振り返りカードにおいて、「主に道徳の学習のとき、自分や友だちのことをじっくり考えた」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は95.3%と昨年度以上の高い水準を維持している。道徳教育推進教師や指導主事による研修会などの活用によって、教員の指導力や意識を高めることにつながり、ICTの活用や役割演技を取り入れるなど児童の実態に応じた教材を工夫し、授業を行うことができた。また、学校公開日を「道徳の日」に設定し、情報モラルについての授業を保護者が参観したり、その様子をホームページに公開したりすることで、計画的に保護者や地域に発信することができた。

次年度への改善点

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」という認識をすべての児童がもてるように、引き続き折に触れ指導を継続していく。
- 「あなたのこんなところが素晴らしい」と他者をほめ、認める活動を継続し、「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答することができるよう自尊感情を育んでいく。
- 様々な「本物」に触れる機会を設けることで、児童の心を揺さぶり、「将来の夢や目標」をもつことができる児童を増やしていく。
- ① いじめアンケートで認知している案件は多いので、今後も継続して全体で見えていく。不登校傾向の子どもに対しては、保護者や外部機関との連携をとり、対応していく。また、日々の気づきを「いいところ見つけ」に入力し、さらなる活用を図る。
- ② 来年度も様々な状況でも自分の身を守れるような防災教育を計画していく。具体的な避難訓練に関しては、年度初めに火災、地震、津波、不審者訓練など大まかな時期や内容を再度検討する。毎年訓練のレベルを上げていくことは大切だが、繰り返し同じ内容の訓練を継続的に行うことで定着を図ることも大切なので、検討する必要がある。
- ③ 感謝されたり、認められたりする機会は多く設けられているが、自分に自信がなく、友だちとのコミュニケーションに悩んでいる児童や、学校に行き渋っている児童も増えてきている。みんながそれぞれ活躍できる多種多様な場面や、自分の良さに気づき互いを認め合う活動をたくさん行っていく必要がある。
- ④ 児童が学習のねらいを十分に意識しながら対話を行い、深い学びにつなげられるよう、発問や学習課題の提示をさらに工夫する。また、学習した道徳的諸価値を児童が自分の

生活場面に結び付けて考えられるよう、振り返り活動や継続的に声をかけることが必要である。

大阪市立東粉浜小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。(R6年度42.1%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。(R6年度75.5%)</p> <p>○令和7年度末の校内調査において、「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にし、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を95%以上を維持する。 (R6年度 早寝早起き73.3%、朝食97.3%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研究をすすめ、全学年で主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業研究に取り組むと共に全教員が一人1回の公開授業を行い、全教員の指導力を高めていく。 <p style="text-align: right;">()</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活振り返りカードにおいて、「授業で自分の意見を言ったり、友達と話し合ったりすることが楽しい」を肯定的に答える児童の割合を85%以上で維持する。(R6年度92.2%) 年度末の教員アンケート「児童が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように発表ノート、クラスルームなどのソフトウェアを活用して指導できる」の項目について、肯定的に回答する教員の割合を80%以上にする。 	
<p>取組内容② 【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>英語教育の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年週2回のフォニックス活動、3・4年生の外国語活動、5・6年生の外国語科を中心とした決められた時間を、ヒアリングとアウトプットを意識して実施する。 <p style="text-align: right;">()</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活振り返りカードにおいて、「英語の学習は楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上で維持する。(R6年度89.8%) 	

<p>取組内容③【5 健やかな体の育成】</p> <p>体力・運動能力向上のための取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府の体育応援・向上事業の取り組みや体力向上推進事業、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析も参考にしながら、体育科の学習時間内の運動量の向上、ならびに普段の生活の中での運動（外遊び）する習慣が身につくようにする。 ・体育的行事やチャレンジ大会、頑張りカードの活用、校内での表彰等、児童の体力向上への意欲をさらに高めていく。 <p style="text-align: right;">()</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の生活振り返りカードの「運動（外遊び）をした」と肯定的な回答をする児童を85%以上を維持する。(R6年度92.8%) 	
<p>取組内容④【5 健やかな体の育成】</p> <p>健康教育・食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の規則正しい生活習慣が身に付くよう、「早寝早起き朝ごはん」をキーワードに、指導と啓発を行い、睡眠時間と朝食をしっかりとるようにする。 <p style="text-align: right;">()</p>	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活振り返りカードにおいて、「各家庭で決めた時刻で睡眠がとれている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にし、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を95%以上で維持する。 <p>(R6年度 早寝早起き73.3%、朝食97.3%)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は49.7%と年度目標は上回ったが、中期目標にはわずか0.3%届かなかった。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75.0%でほぼ昨年度と同程度の結果であり、あと一歩目標には届かなかった。</p> <p>○令和7年度末の校内調査において、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合は96.8%と目標を達成できた。「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合は76.0%で昨年度よりは改善されているが目標には届かなかった。</p> <p>① 「見方・考え方を働かせた対話」と「ふりかえり活動」を充実することを視点とした校内研究をすすめ、研修会を行ってきた。全学年で主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業研究に取り組むと共に、全教員が一人1回の公開授業を行って指導力を高めていくようにした。また、研究通信を発行したり、汎用的ソフトウェア「クラスルーム」に研修に参加して得た学びの成果を投稿したりするなどをして教員同士が互いに学び合えるようにした。さらに校内だけでなく、がんばる先生支援事業に申請し、大阪市の小学校に授業公開するなどをして、研究の取り組みを広めた。その結果アンケートによると「授業で自分の意見を言ったり、友達と話し合ったりすることが楽しい」と対話的な学びに対して肯定的に回答する児童の割合が94.6%と昨年度よりも向上させることが</p>	

できた。そして「児童が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように発表ノート、クラスルームなどのソフトウェアを活用して指導できる」の項目についても肯定的に回答する教員の割合を 95%と目標を大きく上回ることができ、中期目標も達成できた。

- ② 3～6年生の外国語活動・外国語科では、C-NETを活用しながらヒアリングとアウトプットができるように意識しながら取り組んできた。さらに、毎週2回、すべての学年で朝の時間に英語のモジュールの学習を行い、そのうちの1回はC-NETの先生が各教室を巡回して低学年も英語に親しむことができる様々な活動を行った。その結果、生活振り返りカードの「英語の学習は楽しいですか」の項目で肯定的に回答する児童の割合が95.8%と目標を大きく超え、中期目標も達成することができた。
- ③ 毎月の生活振り返りカードの「運動（外遊び）をした」と肯定的な回答をする児童は94.4%と目標を大きく超え、中期目標も達成することができた。学級では、係活動やみんな遊びといった機会を定期的に行うことで、体を動かすきっかけを設けることができた。学校全体としては、今年度もなわとび週間・かけあし週間・講堂開放を運動委員会が主体となって実施した。運動量の向上に加え、運動（外遊び）を促進することができた。
- ④ 生活振り返りカードにおいて、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合は96.8%で、各学年で見ても目標を達成している。睡眠時間に関しては、放送委員会の放送や保健だより等で睡眠の大切さについて呼びかけたが、「各家庭で決めた時刻で睡眠がとれている」に対して肯定的な回答をする児童の割合は76%にとどまり目標を達成することができなかった。年度当初に各家庭で決めた時刻が、児童の生活の実態と合っているのか確認する必要がある。また、朝起きるのが遅く、遅刻が常習化している家庭も目立つ。

次年度への改善点

- 話し合い活動は、児童の学ぶ姿として定着し、個人の考えやふりかえりの共有はできている。各自の考えをより「深める」という点に関しては、今後の引き続きの課題である。
 - 熱中症対策も講じながら、引き続き体力向上につながる実践を継続していく。
 - 子どもの健全な心身の成長を守るため、家族で話し合っ決めて「寝る時刻」「起きる時刻」を明確にし、各家庭において規則正しい生活ができるように具体的目標設定を啓発するとともに、「毎日朝食を食べている」児童の割合は100%となるよう、さらに各家庭に発信し続けていく。
- ① ICTなどの効果的な活用やふりかえり活動も大切だが、子どもが「自分の考えを表したい」「話したい」「もっと知りたい」「学びたい」と思うような子どもの思いを大切にすることで、より子どもの主体性が伸長され、対話が活性化され、学びが深まると考える。このような子どもの問いや思いを軸とした学習展開や単元構成の工夫を今までの研究の成果をもとに行うことで、自分の考えを表現し深めようとする子どもを育てるようにする。
 - ② 火曜・木曜に取り組んでいるモジュールタイムが、よりスムーズに実践できるよう、朝の準備や心の天気ルーティーン化を図るようにする。また、今年度はC-NETがモジュールタイムに協力して頂いたお陰で低学年も関わることができたが、次年度も引き続きC-NETの先生に協力していただけるように働きかけていく。
 - ③ 来年度も運動の習慣を促進するため、講堂開放の時期の設定、期間の検討、その他の効果的取り組みを考えていく。また、生活振り返りカードでは「運動（体を動かす遊び）

やスポーツをしている」と記載されているので、指標と生活振り返りカードの文言を統一していく。

- ④ 睡眠や朝ごはんに関して、学校でできることは多くはないが、校内での子どもへの指導や各委員会からの呼びかけ、保健だより等での家庭への啓発や、学校保健委員会でテーマにあげて、児童が自分事として捉えられるようにするなどの様々な工夫が必要となってくる。

大阪市立東粉浜小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 85%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く] (R6 年度 81.1%)</p> <p>○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 97%以上にする。(R6 年度 96.5%)</p> <p>○年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上を維持する。(R6 年度 91.2%)</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容① 【6 教育 DX の推進】</p> <p>ICT を活用した教育の推進</p> <p>○主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を進めるとともに、一人一台学習者用端末や大型モニターなどの活用に努め、ICT を有効活用した授業を学年の発達段階に応じて推進する。</p> <p style="text-align: center;">()</p>	B
<p>指標</p> <p>・生活振り返りカードにおいて、「デジタル教科書やパソコンなどを使って学習したことがよくわかった」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上を維持する。(R6 年度 95.2%)</p>	
<p>取組内容② 【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>働き方改革の推進</p> <p>・勤務情報システムを活用しながら時間外勤務時間を減らし、教職員の健康管理をすすめる。</p> <p>・専科・教科担任制や、SSS の活用、学校行事の精選や会議時間の短縮に努める。</p> <p style="text-align: center;">()</p>	B
<p>指標</p> <p>・ゆとりの日や午後 6 時までに退勤する日を週 1 回以上設定する。</p> <p>・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 97%以上にする。(R6 年度 96.5%)</p>	
<p>取組内容③ 【8 生涯学習の支援】</p> <p>「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組</p> <p>・子どもたちが読書を好きになる仕掛けをできることから積極的に取り組んでいく。(読書タイム、おすすめ本の紹介、読み聞かせ等)</p>	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活振り返りカードにおいて、「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上を維持する。(R6年度91.2%) 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、令和8年1月末では、85.9%で目標を達成している。</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合は、昨年度よりも改善されているものの96.67%でわずかに目標には届かなかった。</p> <p>○生活振り返りカードにおいて「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は90.2%と目標を達成できている。</p> <p>① ICTは全学年で日常的に活用されており、一人一台学習者用端末やデジタル教材を用いた学習に対する児童の肯定的な回答は95.6%と、目標を大きく上回る高い水準となっている。体育科を含む各教科で自分の学びを振り返ったり、友達の考えや様子を共有したりする活動が可能となり、主体的・対話的な学びの充実につながっている。大型モニターによる見本提示やデジタル教材の活用により、視覚的に分かりやすい授業が実現し、学習内容の理解が深まっている。継続的な活用により、児童のタイピング技能や操作能力も向上し、ICTは文房具のように身近で必要に応じて使う存在として定着している。また、各学年の実態に応じた活用や個に応じた支援にも効果を発揮し、学びを深めるための有効な手段となっている。</p> <p>③ 様々な専科制により、教材研究の教科削減につながり、より楽しく専門的な学習ができるようになってきている。また複数の目で児童をみることができるようになったり、専科の空き時間等に丸つけや提出物の確認などができたりしている。専科制・SSSのおかげで、授業準備にかかる時間が大幅に短縮された。会議の時間も短縮され、勤務時間の短縮につながっている。</p> <p>④ 図書館開放や委員会活動の取組、読み聞かせ、学級文庫の充実などを通して、児童が本に親しむ機会を計画的に設けてきた。また、国語科の単元と関連させた図書の活用や、教室への関連図書の設置、音楽科で絵本の歌での導入、児童同士による係活動での紙芝居の読み合いなど、教科等と関連付けた取組も行った。特に読み聞かせやたくさんの図書にふれることにより、「本の福袋」など、あまり自らは手にする機会のない本に触れる経験を通して読書への興味・関心をさらに高めることができた。一方で、一人一台学習者用端末の活用が進むにつれ、インターネット中心の情報収集が増え、活字に触れる機会が減少していて、90%を超えているものの、かろうじて維持している状況である。本が好きな児童とそうでない児童との間に読書の差が生じている。引き続き、学校全体で読書への関心を高める取組を推進していく必要がある。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>○どの学年も一人一台学習者用端末を「令和の文房具」として、授業の中で活用するとともに、持ち帰り学習でも活用しているので高い活用率にはなっているが、さらに効果的に活用に向けて考えていきたい。</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務については改</p>	

善されているが、持ち帰り業務を行っている教員が増えているので、さらに業務軽減となるような工夫を検討し続けていく。

○端末の活用が上がっているが、読書離れが進まないように、引き続き読書が好きになる様々な仕掛けを工夫していく。

- ① 次年度に向けては、ICT を単に活用するだけでなく、個別最適な学びを実現するための効果的な使い方や生成 AI について教員自身が理解を深め、児童に適切に指導していくことが求められる。また、情報リテラシーの育成や端末使用に関する学校としての約束事を徹底し、安全で適切な活用を継続していく必要がある。さらに、ICT に偏ることなくノート等のアナログとのバランスを図りながら、学習場面や児童の実態に応じた質の高い活用を推進し、児童・教師双方の ICT 活用能力の向上をめざしていく。
- ③ 引き続き、SSS や専科担任制を活用し、働き方改革を推進していく。授業時数による教員の負担の差があることや、勤務システムを活用しながら時間外勤務を減らしていく。一方で家での持ち帰り業務があることは解消できていないので、さらなる業務の軽減が求められる。学校行事部会で学校行事の精選をしたり、学年と専科の連携も大事にしたりしながら取り組みたい。
- ③ 端末活用と読書活動とのメリハリを明確にし、金曜日の朝の会の時間帯を読書タイムと明確に設定するなど、意図的に読書時間を確保していく。読書タイム用の図書を事前に準備し、落ち着いて読書に取り組める環境づくりも工夫していく。また、週に一度は図書室を利用できる時間を確保できるようにする。調べ学習においてはインターネットだけでなく、教科書や図書資料から情報を読み取れるように、学習活動と読書活動を関連付けて進めていきたい。

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1. 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	<p>「学校生活のやくそく」を見直し共通理解するとともに、東粉浜小学校「学校安心ルール」の策定・実行を柱に、児童の規範意識の向上、自己肯定感の育成に重点を置き、学習指導・生活指導に取り組んできた。また、家庭へ「早寝早起き朝ごはん等」の基本的な生活習慣の啓発に取り組んできた。その結果、今年度も暴力行為の発生がなかったことが成果である。また、一昨年度から年間を通してたてわり班活動を取り組み、横だけではなく縦のつながりも意識するようになったことで、より一層上の学年が下の学年に優しくしたり、下の学年が上の学年にあこがれを抱いたりするようになってきた。その結果、自己有用感に改善は見られた。今後は、自己肯定感をさらに育ていけるよう、結果や能力だけではなく、過程や努力を具体的に褒め、失敗しても受け入れる環境、体制を整えていけるようにしていく。</p>
② いじめの状況等	<p>毎学期のアンケートや相談申告機能、児童の観察・聞き取り等からいじめを認知した時点で、素早く担任による聞き取りをした。また、スクリーニング会議Ⅰを毎月行い、学校全体で児童の実態や課題を共有した。さらに、必要に応じて「いじめ対策防止委員会」を立ち上げ、組織的に対応することも行ってきた。そして、「いじめ」に対する定義を児童にわかりやすく伝えやすく伝えてきたことで、結果、昨年度よりもいじめの認知件数が減少した。今後も、組織的な対応のもと、問題がすぐに解消するよう、複数の目で見守り・指導・支援を続け、仲間づくりについて継続的に指導していく。引き続き、危機感をもって指導を継続していく。</p>
③ 小・中・義務教育学校における不登校の状況等	<p>不登校傾向にある児童には、まず保護者と連携し、子どもに寄り添い、励まし、粘り強く指導、支援をし続けている。必要に応じて、本人や保護者が安心できるように外部機関と連携している。校内委員会や、スクリーニング会議Ⅱでは、担任、管理職、関係教員等が連携して対応しており、必要に応じてスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとも情報共有しながら対応している。今後としては、児童の心身を最優先しながら、学校が安心できる環境となれるようにしていく必要がある。</p>

※ 両表とも、小・中・義務教育学校は①②③の項目について、それぞれ記入すること